

2023年6月号

ハノイ日本人学校 学校便り

令和5年6月2日

こころの道

Nhân hậu Thông minh Khỏe mạnh



やさしく

ニャンハウ

かしこく

トンミン

たくましく

ホーエマイン



校長 佐藤之保

「折り合い」をつける力

今月は「折り合い」について考えてみました。折り合いとは、辞書をみると「互いに譲り合って一致点をみつけること」などと書いてあります。「折り合いをつける」という表現で、よく使われています。

さて、この折り合い。生活をしていく上では、とても重要で、私たちが互いに幸福に生活する上では欠くことができません。そして私たちは、他者との折り合いだけではなく、自分の気持ちとも折り合いをつけながら、常に生活しています。

ですから、その折り合いをつける力が十分でないと、生活していて不都合なことが起きてきます。他者との関係でいえば、常に自分の考えや希望は0にして、相手を100%優先したり、逆に自分の考えや希望は100%優先して、相手を無視したり……。これでは、自分か相手に大きなストレスを与えることになってしまいます。数回ならいいかもしれませんが、これが長く続くと大きな問題となってきます。国の調査での若者の離職原因の一つである「人間関係」ということも、正にこの「折り合い」をうまくつけることができなくて起きてくる問題ではないでしょうか。

随分前のある学校で、子供たちに、この「折り合い」について、例えを引きながら話したことがあります。初めに、ある日自分たちのクラスで、お楽しみ会の内容を決めるときに、サッカーに賛成する人が20人、ゲームに賛成する人が10人だったらどうする?と聞きました……。返答は「サッカーをする」でした。

ここで私が子供たちに一番伝えたかったのは、サッカーに賛成する20人とゲームに賛成する10人がそれぞれ何を学んでほしいか、ということでした。

そして、もしそういうときがあったら、皆さんにはこんなことを学んでほしいと伝え、話を続けました。

20人の人には「10人が、どうすればサッカーに賛成してくれるか、サッカーの実施方法を工夫し、“相手と折り合いをつけながら”、20人が少しでも増えて30に近づくようにするにはどうしたらよいか」を考えて実施することを学んでほしい。

そして10人には、「世の中は、自分の思い通りにならないことの方が多く、今回は自分の希望は実現しなかったけれど、サッカーの実施に向けて、協力し、その中で自分なりの楽しみをどう見つけるかという“自分の気持ちと折り合いをつける”ことを学んでほしい。……」

こんなことを話しました。

子供たちが、他者や自分と上手に「折り合い」をつけて、より幸せな人生を送ってほしいと願ってやみません。本校でもご家庭と協力しながら、子供たちにこの「折り合いをつける力」を育てていけたらと思います。